

令和3年度事業計画

日本薬理学会は、薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉え、これまで果たしてきた役割を確認し、21世紀における薬理学のidentityを確立するために、会員の皆様と一緒に学会活動を積極的に続けています。

具体的に以下の項目を積極的に推進していきます。

- 1) 創薬に携わっている企業の研究者とアカデミアの研究者のインターフェースの役割を果たしていますが、さらに「オープンイノベーション活動」を発展させてまいります。
- 2) 薬理学における高度な教育技術を持った会員であることを日本薬理学会が保証する「薬理学エデュケーター認定制度」により、薬の適正使用と啓蒙において優れた教育能力を備えた人材を社会に送り出しております。
- 3) 年会・部会などの学術集会に関して、様々な状況に対応できるようにWEB配信システムの基盤構築を検討しております。そのために年会長、部会長、組織委員会、年会学術企画委員会、薬理学会事務室の連携強化を図り、効率的に学術集会等を運営します。
- 4) 英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」がオープンジャーナルとして極めて高い水準に達したことからなお一層の努力を続け、世界中に情報を発信してまいります。
- 5) 和文誌「日本薬理学雑誌」が日本国内の創薬科学の総説誌として高い評価を得ておりますことから、日本中に情報を発信してまいります。
- 6) 今後の中期的目標として、日本薬理学会創立100周年を迎える2027年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。
- 7) 日本国内外の学会との連携を強めていきます。アジアの中で中心的な役割を担う存在であることを認識して世界各国の薬理学会、そしてIUPHAR (International Union of Basic and Clinical Pharmacology) との国際的連携を発展させてまいります。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 谷内 一彦

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

(1) 年会の開催

- ・第94回 日本薬理学会年会
年会長：吉岡 充弘（北海道大学・院医）
2021年3月8日～10日 札幌コンベンションセンター及びリモート開催

(2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- ・第144回 日本薬理学会関東部会
部会長：石毛久美子（日本大学・薬）
2021年6月5日 日本大学薬学部
- ・第139回 日本薬理学会近畿部会
部会長：山田 清文（名古屋大学・院医）
2021年6月26日 ウィンクあいち
- ・第72回 日本薬理学会北部会
部会長：丹野 孝一（東北医科薬科大学・薬）
2021年9月23日 東北医科薬科大学小松島キャンパス
- ・第145回 日本薬理学会関東部会
部会長：石川 智久（静岡県立大学・薬）
2021年10月9日 静岡県立大学（予定）
- ・第140回 日本薬理学会近畿部会
部会長：吉栖 正典（奈良県立医科大学・医）
2021年11月13日 奈良県コンベンションセンター
- ・第74回 日本薬理学会西南部会
部会長：西 昭徳（久留米大学・医）
2021年11月20日 久留米シティプラザ

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して3回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座（第94回年会） 2021年3月7日 北海道大学医学部百周年記念館

テーマ：「臨床医のための薬理学シンポジウムー気分障害治療薬ワークショップ」

- ・部会開催に合わせて2回の公開講座開催を予定している。

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。2020年度からWeb配信により全会員が無料で視聴できるようになった。2021年は2回の開催を予定している。

(5) 薬理学カンファレンス2021の開催

第94回年会前日（2021年3月7日）他、地方部会に合わせて開催予定。全国から参加者を募るため、オンライン配信を基本とする。

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciencesを全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2021年刊行予定：145巻1～4号、146巻1～4号、147巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2021年刊行予定：156巻1～6号 計6冊

(3) 「医学と医療における日本の薬理学の貢献（仮題）」パンフレットの作成。

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している。第14回選考より、選考対象領域を分け、年毎に募集領域を公告し、推薦を受け付ける。

- ・第14回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第94回年会会期中の2021年3月9日に行われる予定。

西堀 正洋（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）

『炎症病態をターゲットとしたトランスレーショナルリサーチと創薬』

- ・第15回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第36回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、第94回年会会期中の2021年3月8日に行われる予定

川畑伊知郎 東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授

『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防・治療応用研究』

菊田 順一（大阪大学大学院・医学系研究科・准教授）

『生体イメージングによる骨疾患治療薬のin vivo薬理作用の解明』

野村 洋（北海道大学大学院・薬学研究院・講師）

『記憶・学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』

- ・第37回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

- ・第25回JPS優秀論文賞受賞者には賞状と副賞を授与する。
- ・第26回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第94回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10~20件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciencesの査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

(3) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

(4) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本毒性学会共催シンポジウム 2021年3月8日（第94回年会会期中）
薬理学・毒性学視点からアプローチするエクスポソーム研究
- ・看護薬理学カンファレンス 2021年3月7日（第94回年会前日）、Web開催予定。

(5) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・JPS-ASCEPT Lectureを2021年3月9日（第94回年会会期中）に開催し、同11月にシドニーで開催されるASCEPT年会に、講師を派遣する。
- ・第8回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meetingを2021年3月10日（第94回年会会期中）に開催予定。
- ・第23回日韓薬理学合同セミナー（韓国・大邱市）運営に参加予定。

5 薬理学エドゥケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として、薬理学エドゥケーター認定事業を行っている。経過措置による申請期間が終了し、2021年度からは通常の申請を受け付ける。

6 その他

1 会 員

- ・2020年度末の会員数は2019年度末の会員数4,148名から、若干、減少し、4,059名となった。

2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事、業務執行理事、常置委員会委員長、年会長、次世代の会代表による拡大常務理事会を開催し、様々な課題に取り組み、理事会の業務執行に協力する。

3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し、科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

4 事務局体制について

- ・事務局は外部委託により運営されているが、2021年3月で試行期間の2年が終了する。以降については本会の事業が安定的に継続できるような事務局体制の構築に努める。